



福祉施設など 厚労相が視察

四日市

塩崎恭久厚労相が二十日、四日市内で児童・高齢者施策の現場を視察し、四日市医師会などから先進的な取り組みを聞いた。

四日市医師会では加藤尚久副会長と山中賢治理事が、基幹病院と地域の診療所の連携を深めるなど在宅医療の推進について説明。市内で二〇一二年に自宅で亡くなった人は一八・五％で、県平均一三・六％や全国平均一二・八％を上回ったという。

在宅で年三万件ほどのみとりに関わる「いしが在宅ケアクリニック」の石賀丈士院長は「子どもが死を理解できる在宅のみとりは教育にも重要だ」と訴えた。

福祉施設などを視察した塩崎厚労相（手前）
＝四日市の小山田特別養護老人ホームで



乳児院・児童養護施設エスペランス四日市や、小山田特別養護老人ホームも視察。特養ホームでは、運営する社会福祉法人「青山里会」の高齢者向け施設「の展開を聞いた。」

また、三重西部地区では有償ボランティアで住民同士が助け合う「ライフサポート三重西」の会員と意見交換した。

視察を終えた塩崎厚労相は「高齢者、障害者、子どもなどいろいろな人が支え合う地域共生社会づくりを、三重県の事例を参考に展開したい」と話した。
（吉岡雅幸）